

JVCケンウッド 決算説明会

2013年(平成25年)3月期

株式会社JVCケンウッド

【資料中の略語】

CE : カーエレクトロニクス(事業)

PS : 業務用システム(事業)

COM : 無線機器(事業)

BS : ビジネスソリューション(事業)

HM : ホーム & モバイルエレクトロニクス(事業)

音響 : 音響機器(事業)

映像 : 映像機器(事業)

SE : エンタテインメント(事業)

このプレゼンテーション資料に記載されている記述のうち、将来を推定する表現については、将来見通しに関する記述に該当します。これら将来見通しに関する記述は、既知または未知のリスクおよび不確実性並びにその他の要因が内在しており、実際の業績とは大幅に異なる結果をもたらす恐れがあります。これらの記述は本プレゼンテーション資料発行時点のものであり、経済情勢や市場環境によって当社の業績に影響がある場合、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。実際の業績に対し影響を与えうるリスクや不確実な要素としては、(1)主要市場(日本、米州、欧州およびアジアなど)の経済状況および製品需給の急激な変動、(2)国内外の主要市場における貿易規制等各種規制、(3)ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、(4)資本市場における相場の大幅な変動、(5)急激な技術変化等による社会インフラの変動、などがあります。ただし、業績に影響を与えうる要素としてはこれらに限るものではありません。

【2013年3月期実績】

- * 欧州・国内の競争環境悪化の影響を受けたものの、CE、HMが営業黒字を継続し、主要4事業が2期連続で営業黒字。
- * CEに代わって、PSの回復とSEの成長で利益を積み上げ。
- * 2期連続最終黒字で、1株当たり5円の安定配当継続。

【2014年3月期予想】

- * CEはOEMが端境期に入り先行投資集中で減益となるものの、PSを原動力に、若干の増収増益を見込む。
- * HMは赤字事業の損益改善で増益、SEはヒット作輩出による利益の積み上げを目指す。
- * 為替変動リスクは営業内、営業外とも軽減済み。

2013年3月期 決算概況

CE、PS、HMの各事業の欧州販売減少、為替変動の影響などにより
全社の売上高、各利益は減収減益

(億円)

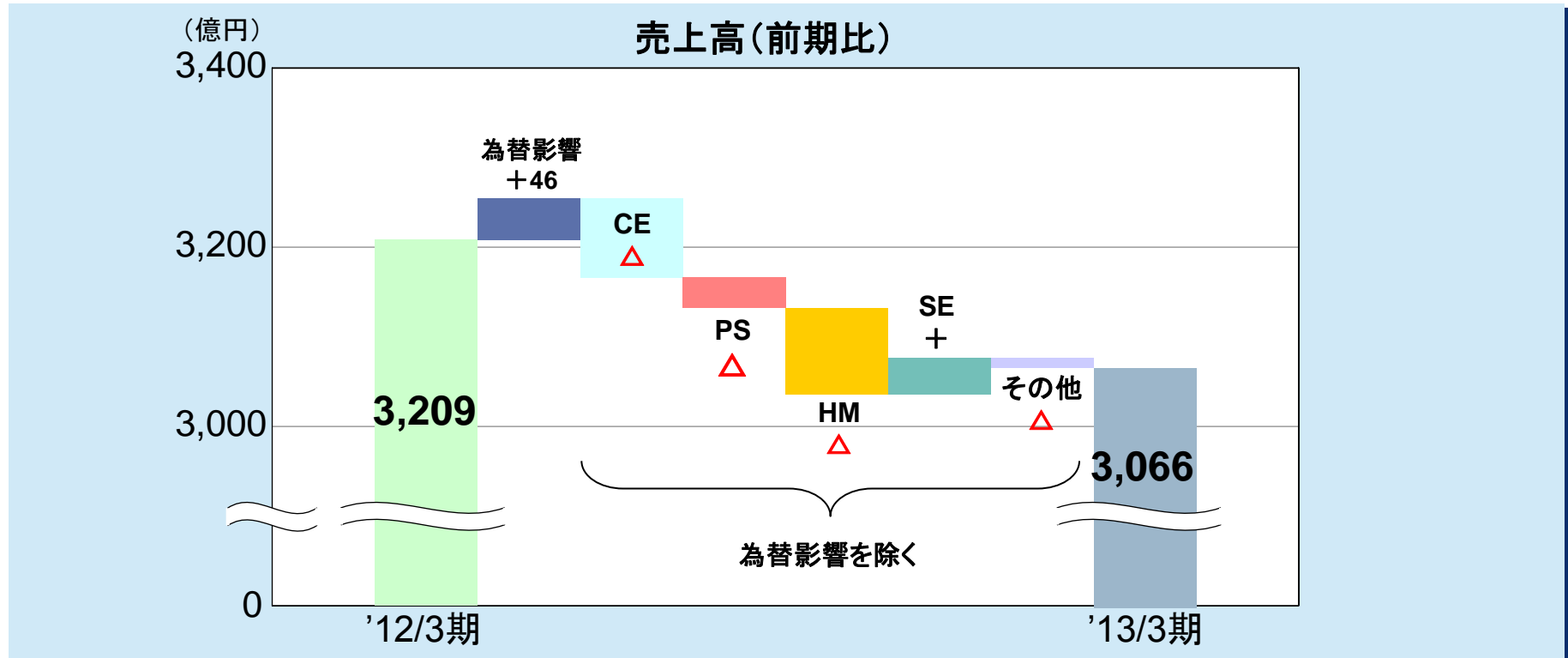
		売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	配当予想
通期	'13/3期	3,066	96	31	11	5円
	'12/3期	3,209	128	64	60	5円
	前期比	△143 (+46)	△32 (△14)	△33 (△41)	△49 (△41)	

※()は前期比での為替影響

4Q	'13/3期	821	48	23	26
	'12/3期	843	40	-1	16
	前期比	△22	+8	+23	+10

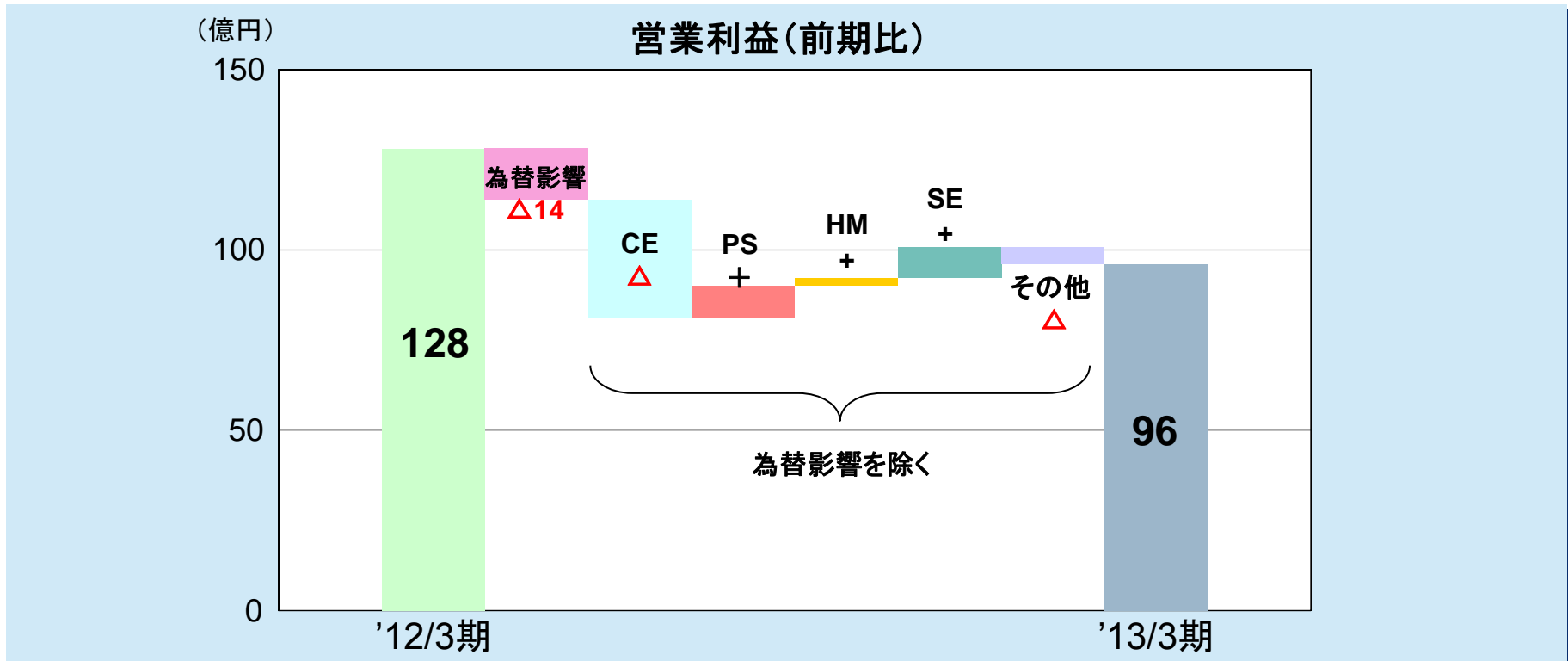
当期実績: 3,066億円 (前期比 $\Delta 4.5\%$)

- * 全社売上高は、欧州経済の悪化を受けて各事業の欧州販売が減少したことに加え、HMの一部機種種の絞り込みの影響もあり、減収。
- * SEはヒット作品を多数輩出して増収。
CE、PS、HMは北米の販売が堅調に推移。



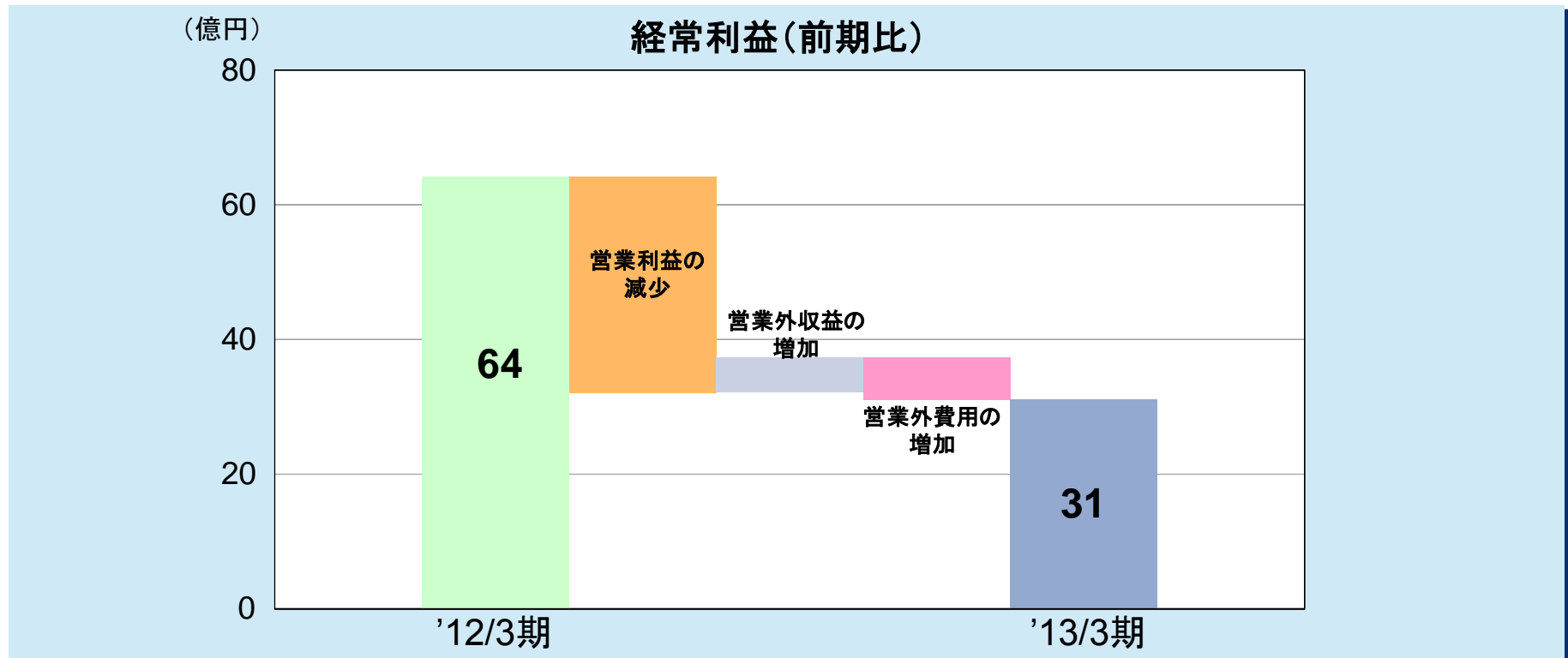
当期実績: 96億円 (前期比 $\Delta 32$ 億円)

- * 全社営業利益は、欧州販売減少の影響、CEの国内市場での競争激化の影響に加え、主に上期における為替変動の影響などもあり、減益。
- * SEは増収効果により増益。東日本大震災やタイ洪水の影響の減少によりPSが増益。HMも為替影響を除けば増益。



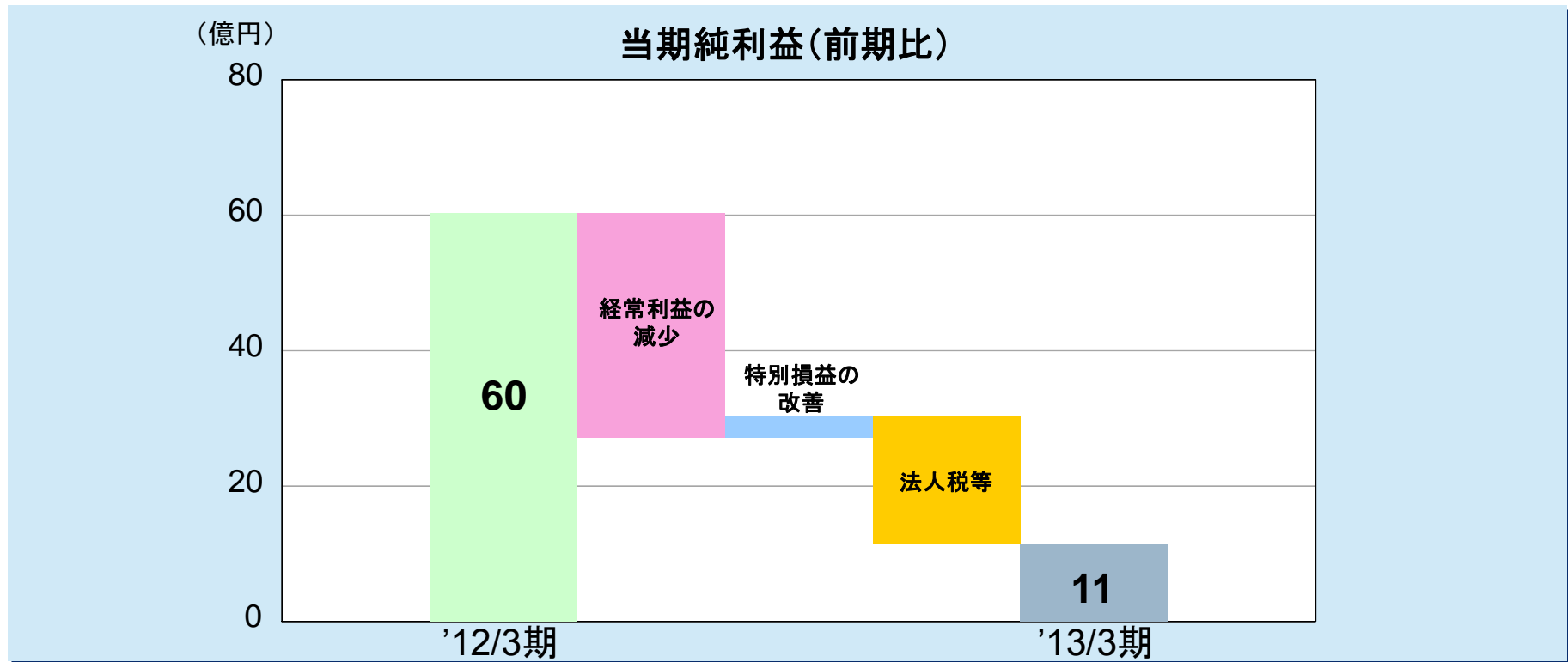
当期実績: 31億円 (前期比 Δ 33億円)

- * 経常利益は、営業利益の減少などにより減益。
- * 営業外収益は、シンワの持分法投資利益の計上などにより5億円増加。
- * 営業外費用は、借入手数料が減少したものの、3Q以降の対米ドル円安にともない、28億円の為替差損が発生したことなどにより、6億円増加。



当期実績：11億円（前期比 Δ 49億円）

- * 当期純利益は、経常利益の減少や法人税等の増加などにより減益。
- * 特別利益は、タイ洪水関連の受取保険金の減少などにより4億円減少。
- * 特別損失は、タイ洪水による災害損失の減少などにより7億円減少。
- * 法人税等合計は、法人税等調整額が前期の Δ 26億円から Δ 1億円となり21億円増加。



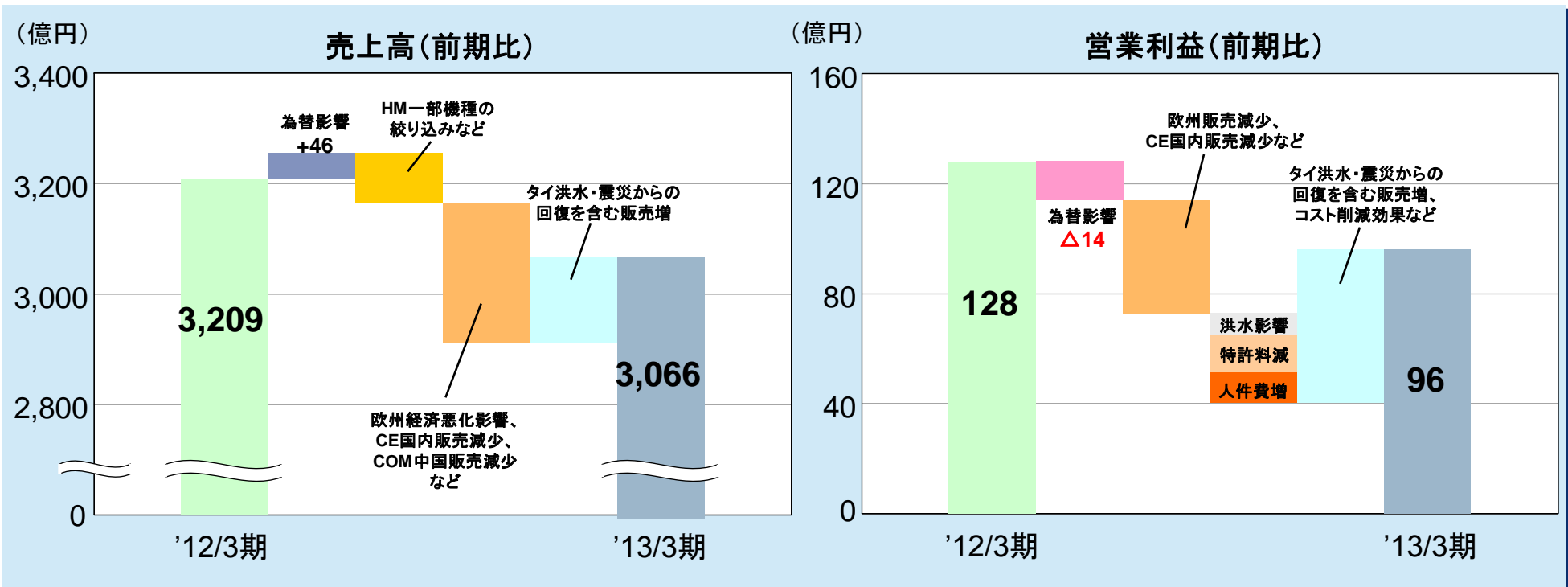
2013年3月期決算 増減分析(前期比)

<売上高>

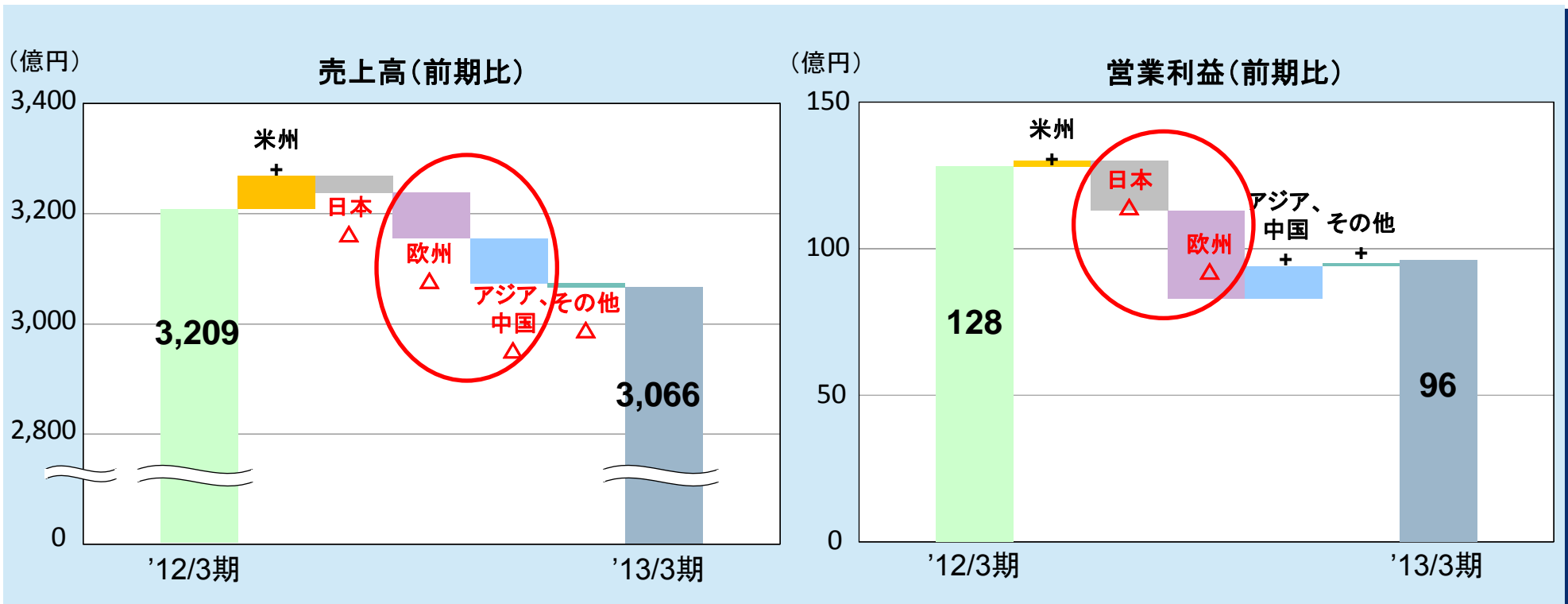
- * HMの一部機種絞り込みに加え、欧州経済の悪化、CE国内販売、COM中国販売の減少が主な減収要因。

<営業利益>

- * 為替影響に加え、欧州販売やCE国内販売の減少が主な減益要因。
- * タイ洪水影響、特許料収入減少、人件費増加などの減益要因は吸収。

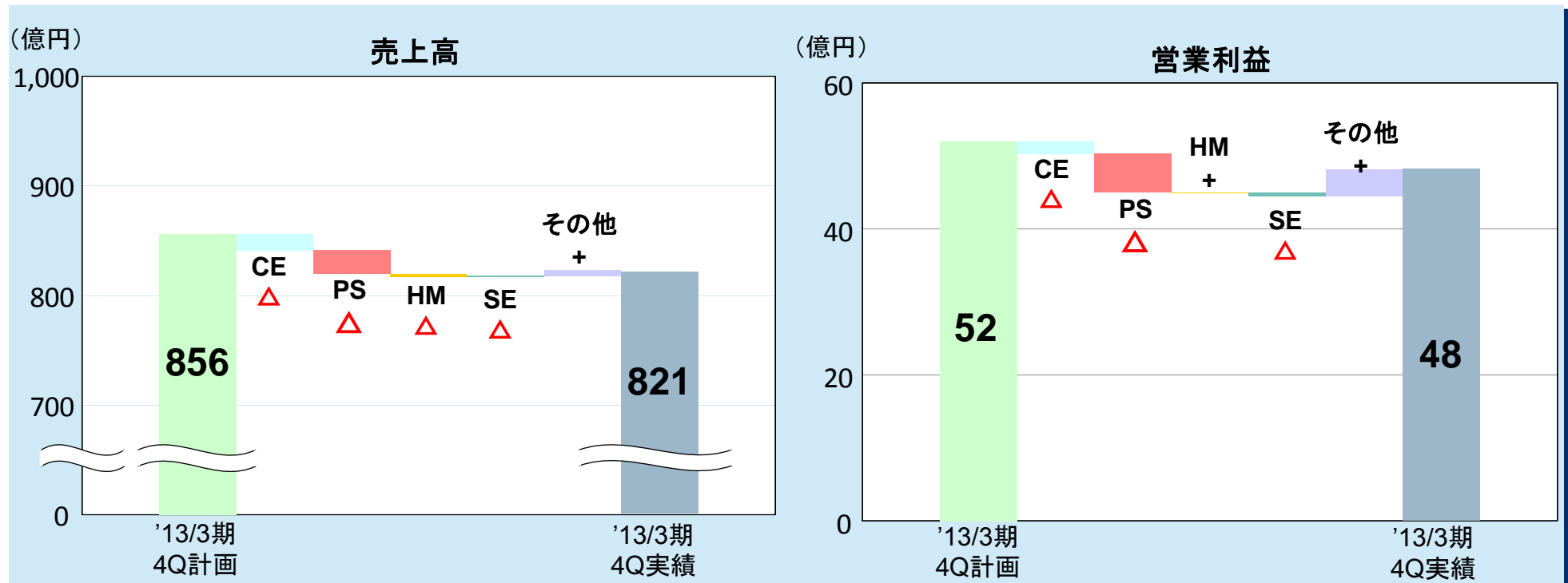


- * 米州は各事業とも堅調に推移。
- * **欧州**は経済悪化で各事業が低迷、**日本**は競争環境悪化でCE、HMが苦戦。
- * **アジア・中国**は、HMの一部商品絞り込みで減収ながら損益は改善。



2013年3月期決算 4Q実績(計画比)

- * 欧州経済低迷などの影響を受けたが、季節要因を活かして
CE市販とCAMの新商品導入、PSの受注獲得に注力するとともに、全社レベルでの
経費削減などに取り組んだ成果により、売上高、営業利益はほぼ予想どおり。
- * 経常利益、当期純利益は、為替評価損益リスク軽減策を実行した時点までに生じた
為替差損の影響などにより予想を下回った。



セグメント別情報

セグメント別売上高および損益 サマリー

* 前期に引き続き主要4事業で営業黒字。

* CEの低迷をPSとSEで一部カバー。

(億円)

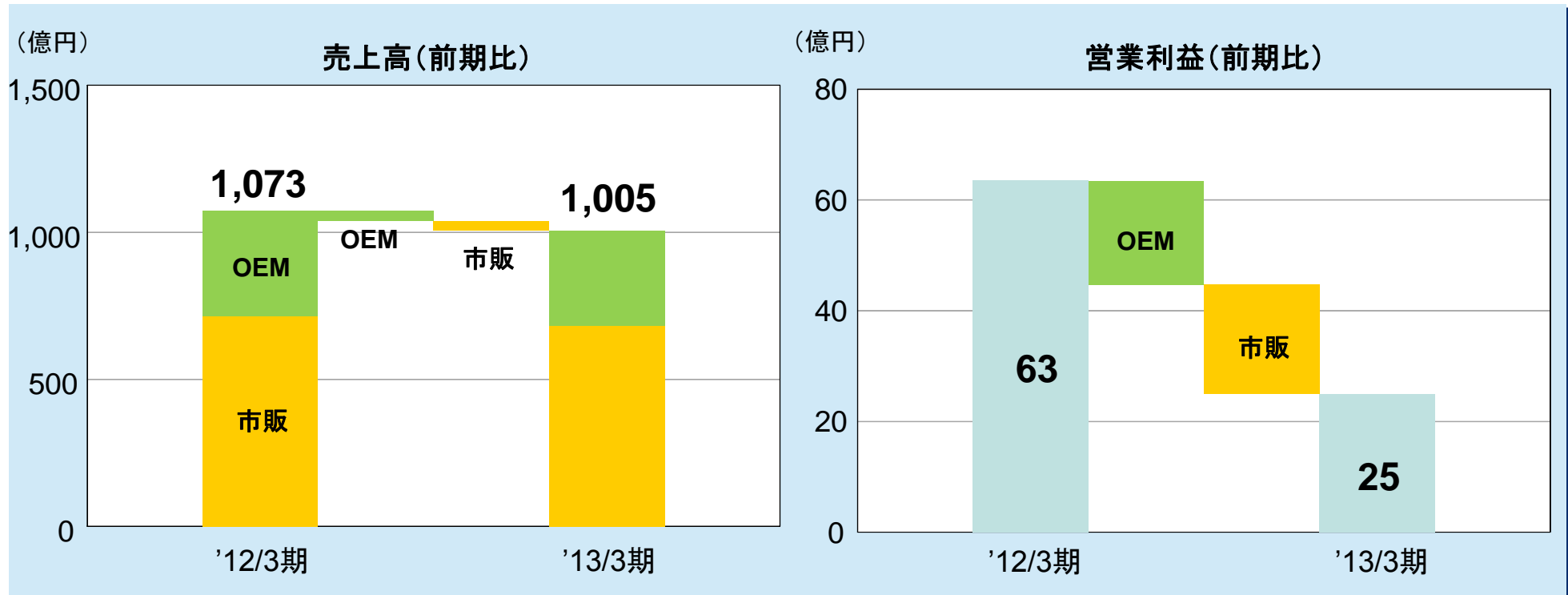
セグメント		第3四半期累計			第4四半期			通期			
		'13/3期	'12/3期	前期比	'13/3期	'12/3期	前期比	'13/3期	'12/3期	前期比	構成比
CE	売上高	726	777	△ 51	279	296	△ 16	1,005	1,073	△ 67	32.8%
	営業利益	14	44	△ 30	11	20	△ 9	25	63	△ 39	26.0%
PS	売上高	651	671	△ 20	267	264	+3	918	935	△ 17	30.0%
	営業利益	12	16	△ 4	28	15	+13	40	31	+9	41.9%
HM	売上高	521	593	△ 71	167	183	△ 16	688	775	△ 88	22.4%
	営業利益	5	14	△ 9	5	3	+2	11	17	△ 7	11.0%
SE	売上高	313	281	+31	96	86	+10	409	367	+41	13.3%
	営業利益	19	12	+7	2	1	+1	20	12	+8	21.3%
その他	売上高	33	43	△ 10	12	15	△ 3	46	58	△ 12	1.5%
	営業利益	-2	2	△ 5	2	2	+0	-0	4	△ 4	-0.1%
合計	売上高	2,245	2,365	△ 121	821	843	△ 22	3,066	3,209	△ 143	-
	営業利益	48	88	△ 40	48	40	+8	96	128	△ 32	-

売上高: 1,005億円 (△6.3%) 営業利益: 25億円 (△39億円)

市販: 北米販売が堅調に推移、アジアでは販売回復。しかし、欧州では経済悪化・為替の影響、国内は商品構成の低価格化により、収益が減少。

OEM: DOPの減速、CD/DVDメカの欧州向け低迷の影響により、収益が減少。光ピックアップは好調持続。

グラフの増減には為替影響を含む

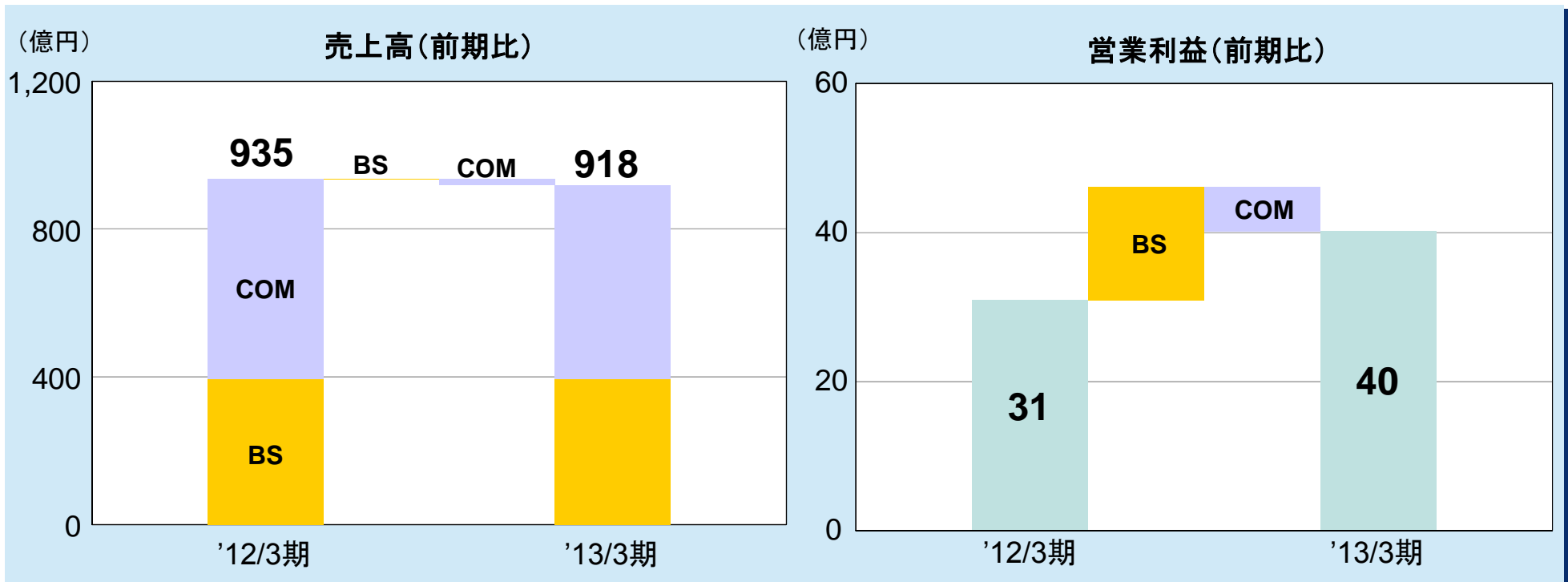


売上高: 918億円 (△1.8%) 営業利益: 40億円 (+9億円)

COM: 北米ではデジタル無線機器販売が堅調持続、国内では新規受注を獲得。しかし、欧州販売減少、中国販売回復遅れから減収減益。

BS: 海外販売不振やタイ洪水によるコスト増(1Q)はあったものの、2Q以降はタイ工場生産の平常化、販売回復により、損益改善。

グラフの増減には為替影響、洪水影響を含む

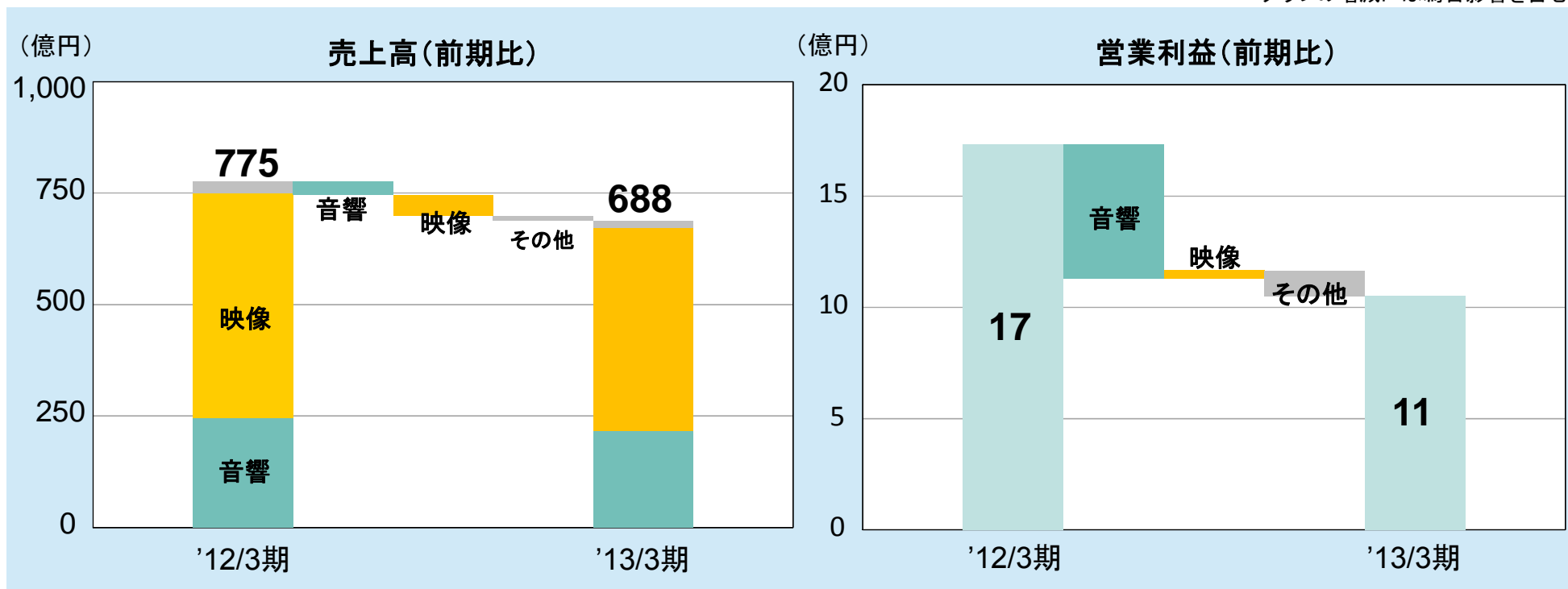


売上高: 688億円 (△11.3%) 営業利益: 11億円 (△7億円)

音響: AVアクセサリが高収益性持続。ホームオーディオは国内市場縮小や欧州経済悪化で損益悪化。音響全体で黒字持続ながら減収減益。

映像: カムコーダーは欧州経済悪化などにより損益悪化。プロジェクターは収益伸長、ディスプレイは黒字化。映像全体では減収ながら損益改善。

グラフの増減には為替影響を含む



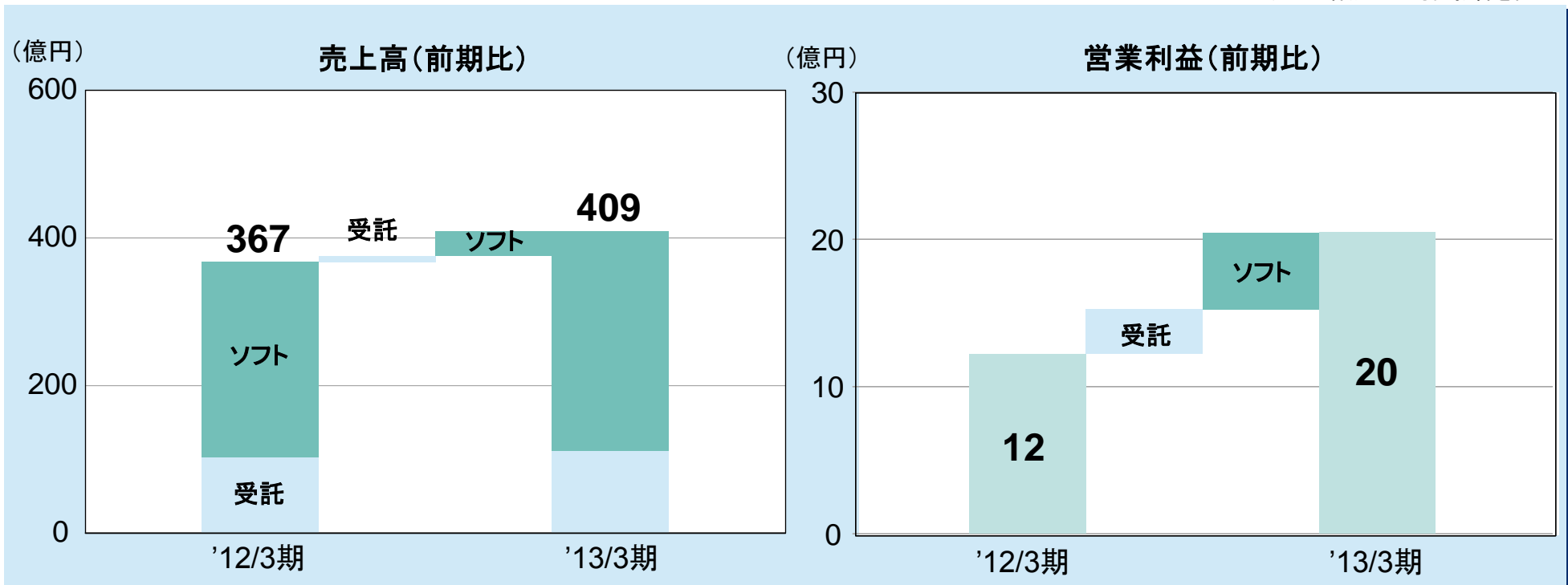
2013年3月期決算 エンタテインメント事業

売上高: 409億円 (+11.2%) 営業利益: 20億円 (+8億円)

ソフト: テレビ番組主題歌や音楽アルバムなどのヒット作品複数輩出。
アニメ関連は好調持続、権利収入も順調で収益拡大。

受託: 光ディスク生産の堅調とコスト削減効果により損益改善。

グラフの増減には為替影響を含む



2013年3月期決算 財政状態

バランスシート

- * 総資産は、円安による外貨建資産の円換算額増加などにより49億円増。
- * 負債は、未払費用の減少や社債の償還などにより53億円減。有利子負債は59億円減。ネットデットはシンワ株式取得にともなう現金及び預金の減少で19億円増。
- * 利益剰余金は5億円増、株主資本合計も5億円増。
純資産合計は為替換算調整勘定差額が是正され、102億円増。
自己資本比率は+3.7%で26.6%。

	'12/3期末	'13/3期末	(億円) 前期末増減
総資産	2,418	2,466	+49
有利子負債	924	865	△59
(うち長期借入金)	503	131	△373
ネットデット	268	287	+19
ネットD/Eレシオ(倍)	0.48	0.44	△0.05
資本剰余金	459	459	±0
利益剰余金	242	247	+5
純資産	571	672	+102
自己資本比率(%)	22.9	26.6	+3.7

キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フロー 98億円の資金増(前期比9億円収入増)

* 雇用構造改革費用支出が大きく減少したことが主要因

投資活動によるキャッシュ・フロー 134億円の資金減(前期比69億円支出増)

* シンワ株式の取得などの資本業務提携など、戦略投資推進が主要因

財務活動によるキャッシュ・フロー 86億円の資金減(前期比71億円支出増)

* 長期借入れによる収入の減少、社債償還による支出の増加が主要因

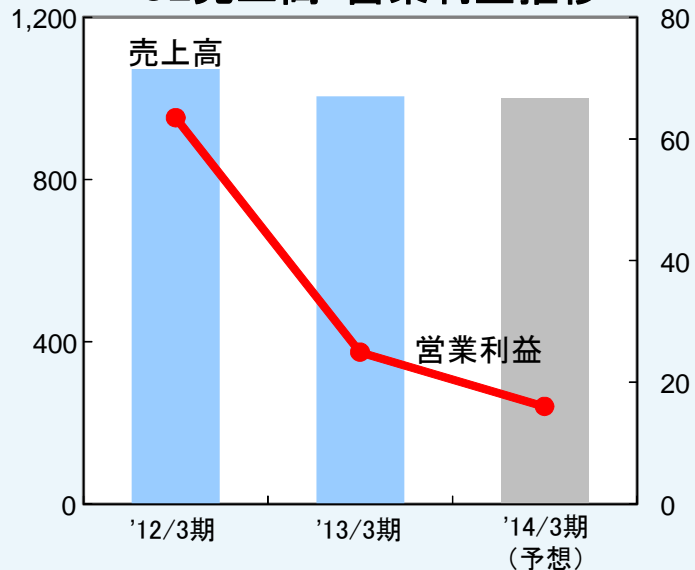
当期末の現金及び現金同等物 575億円(前期比80億円減)

2014年3月期の取り組み

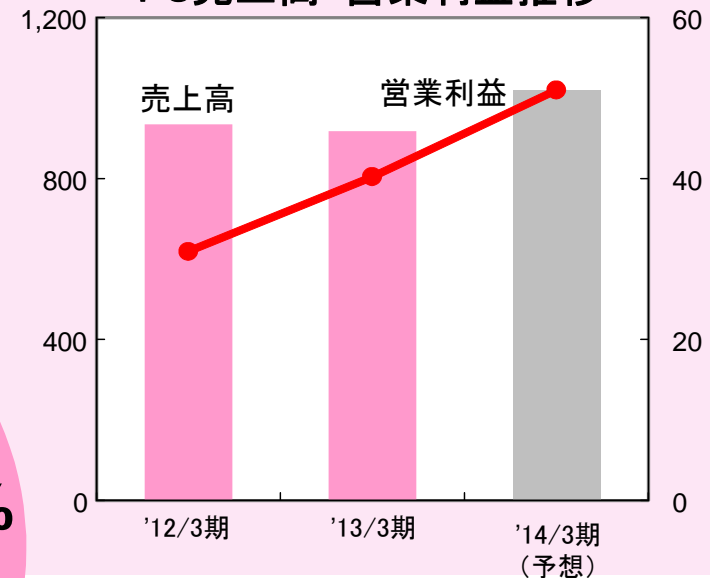
2014年3月期 通期業績予想

2014年3月期 業績予想 セグメント別

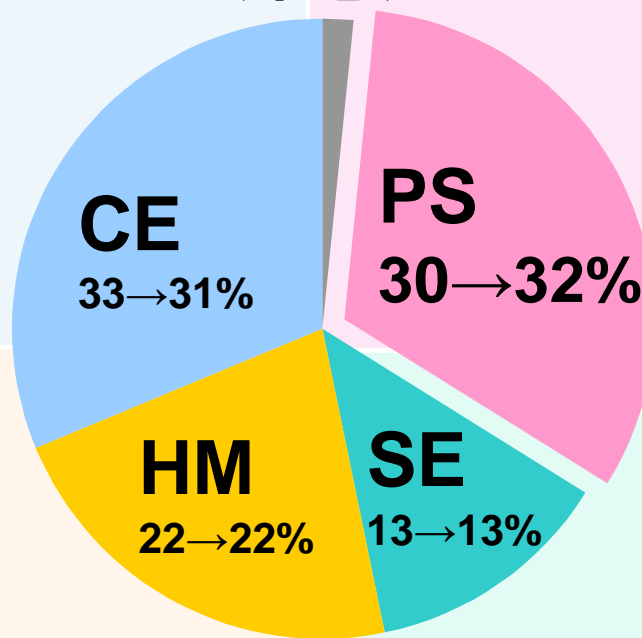
CE売上高・営業利益推移



PS売上高・営業利益推移

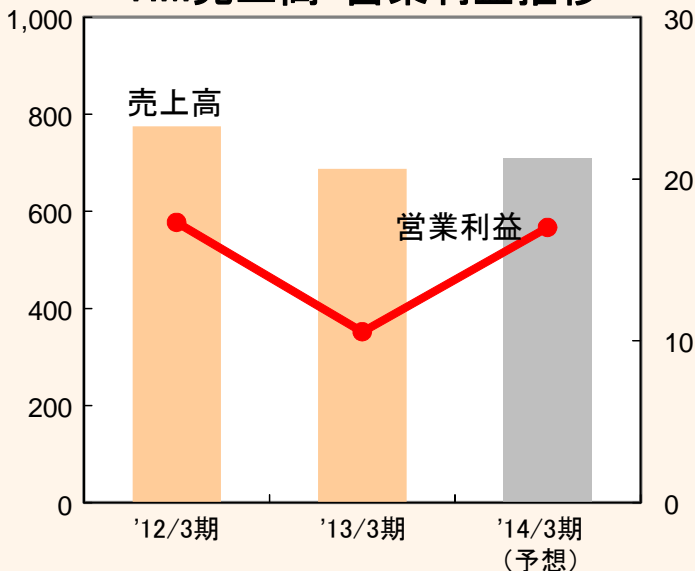


'14/3期 売上構成比 (予想)

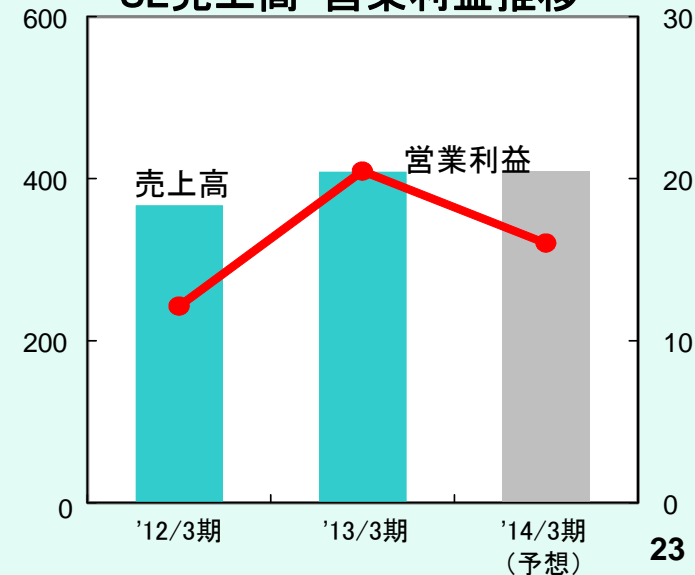


('13/3期 → '14/3期 構成比)

HM売上高・営業利益推移



SE売上高・営業利益推移



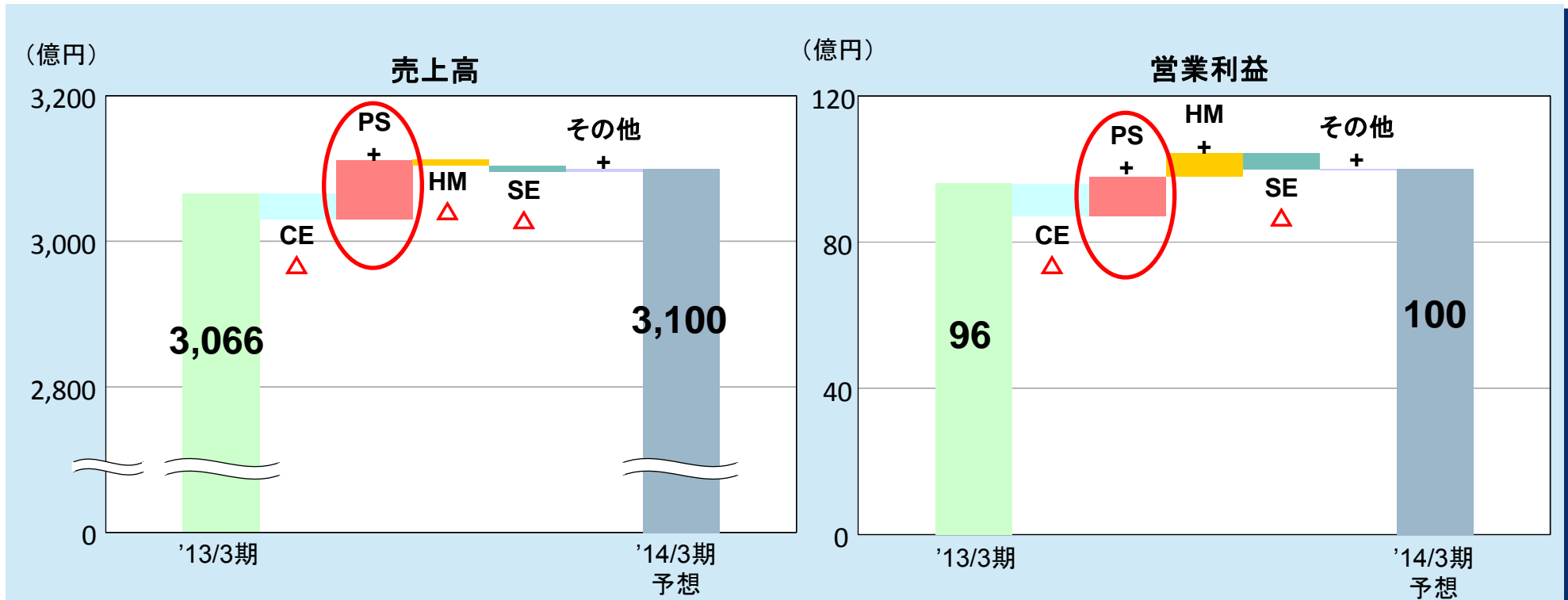
(単位: 億円)

- * '14/3期は、若干の増収増益となる
売上高3,100億円、営業利益100億円を見込む。
- * 為替変動リスクを軽減したことにより、営業外収支は大幅に改善し、
経常利益55億円、当期純利益30億円を見込む。
- * '14/3期の配当は、安定的な利益還元策として
'13/3期と同額の1株当たり5円を予想。

(億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
'14/3期	3,100	100	55	30
'13/3期	3,066	96	31	11
前期比	+34	+4	+24	+19

- * CEは、OEMが端境期にあたり来期以降の大型受注獲得に向けて先行投資に集中する期間となるため、減益を見込む。
- * PSは、堅調を継続しているCOMと、タイ洪水の影響がなくなり販売が回復したBSの両輪による成長を見込む。
- * HM、SEも引き続き安定した収益を見込む。



2014年3月期の取り組み

1. 事業ポートフォリオの強化

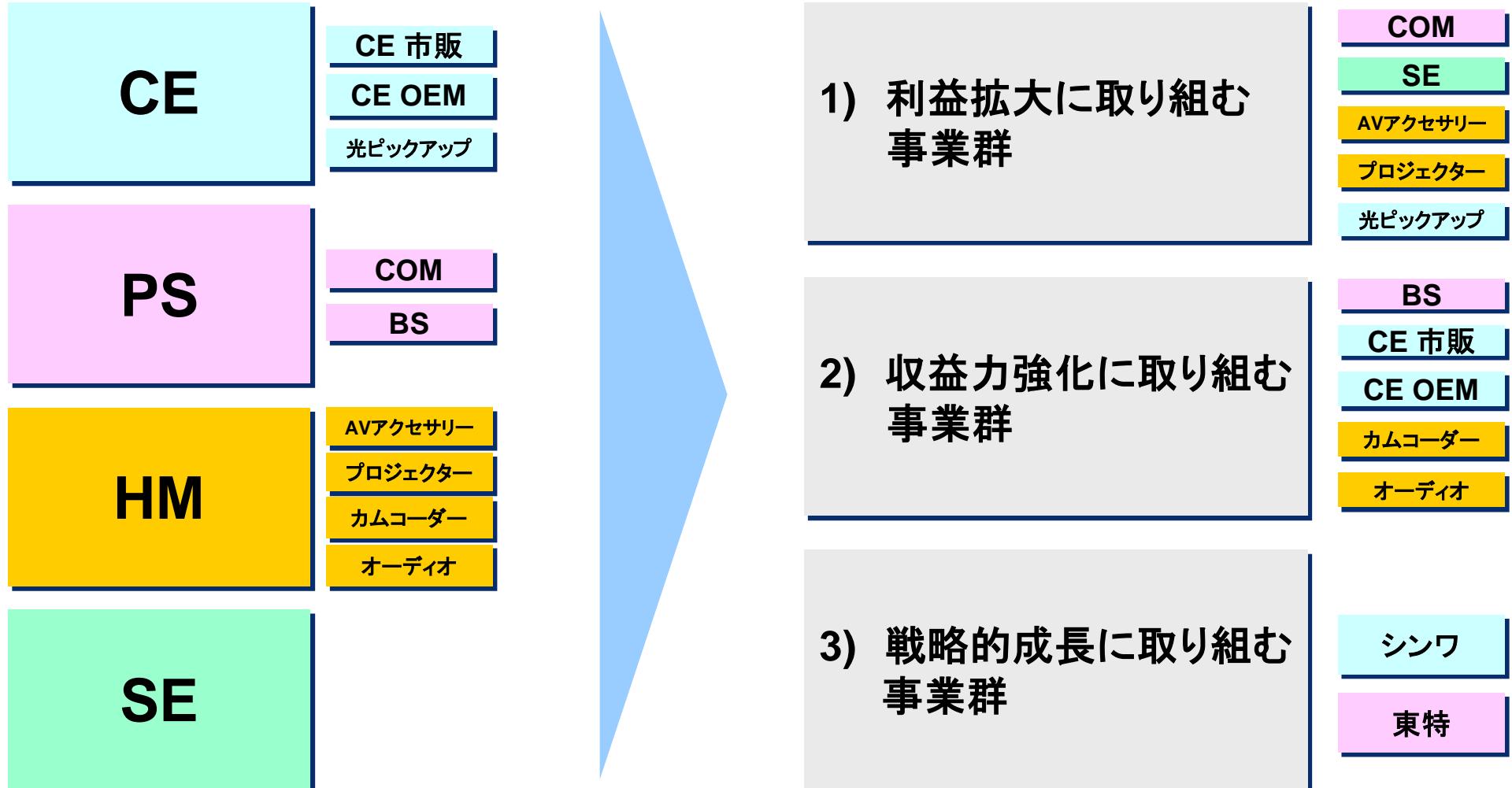
- 1) 利益拡大に取り組む事業群
- 2) 収益力強化に取り組む事業群
- 3) 戦略的成長に取り組む事業群

2. 為替変動リスクの軽減

3. 企業基盤の強化

1. 事業ポートフォリオの強化 ポートフォリオ置換え

4つの事業セグメントにおける各事業ユニットを3つに分類



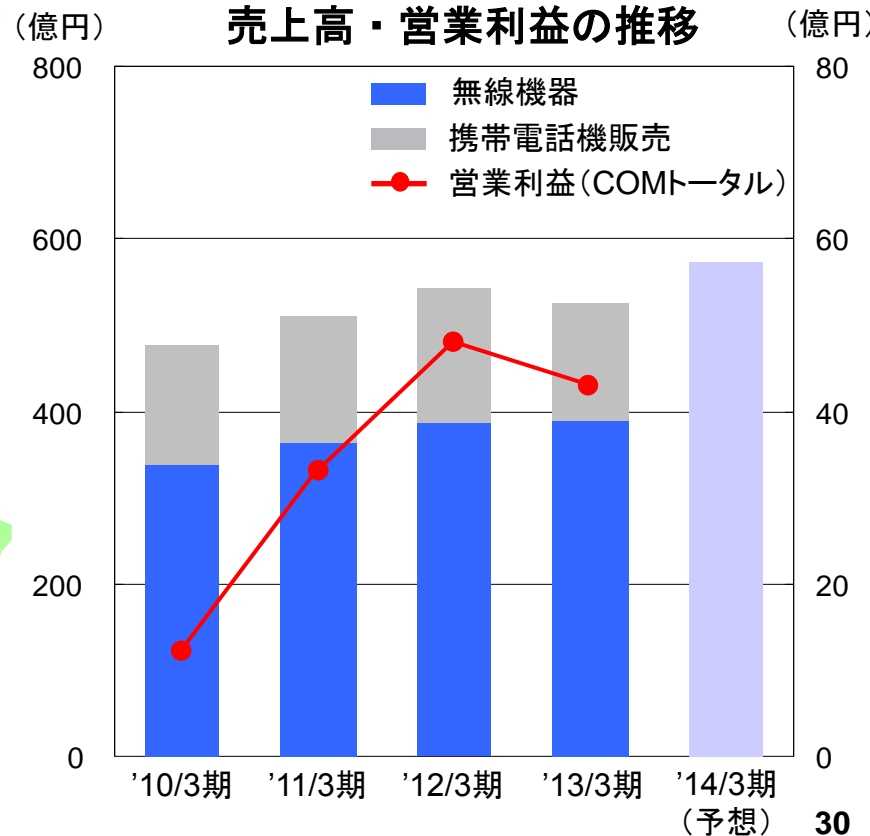
1. 事業ポートフォリオの強化

- 1) 利益拡大に取り組む事業群
- 2) 収益力強化に取り組む事業群
- 3) 戦略的成長に取り組む事業群

1. 事業ポートフォリオの強化 1) 利益拡大に取り組む事業群

① 無線機器事業 (PS事業)

- * 世界各地域の通信プロトコルに対応したデジタル業務用無線機器・システムの開発・販売
- * 生産体制の最適化と販売ネットワークの強化

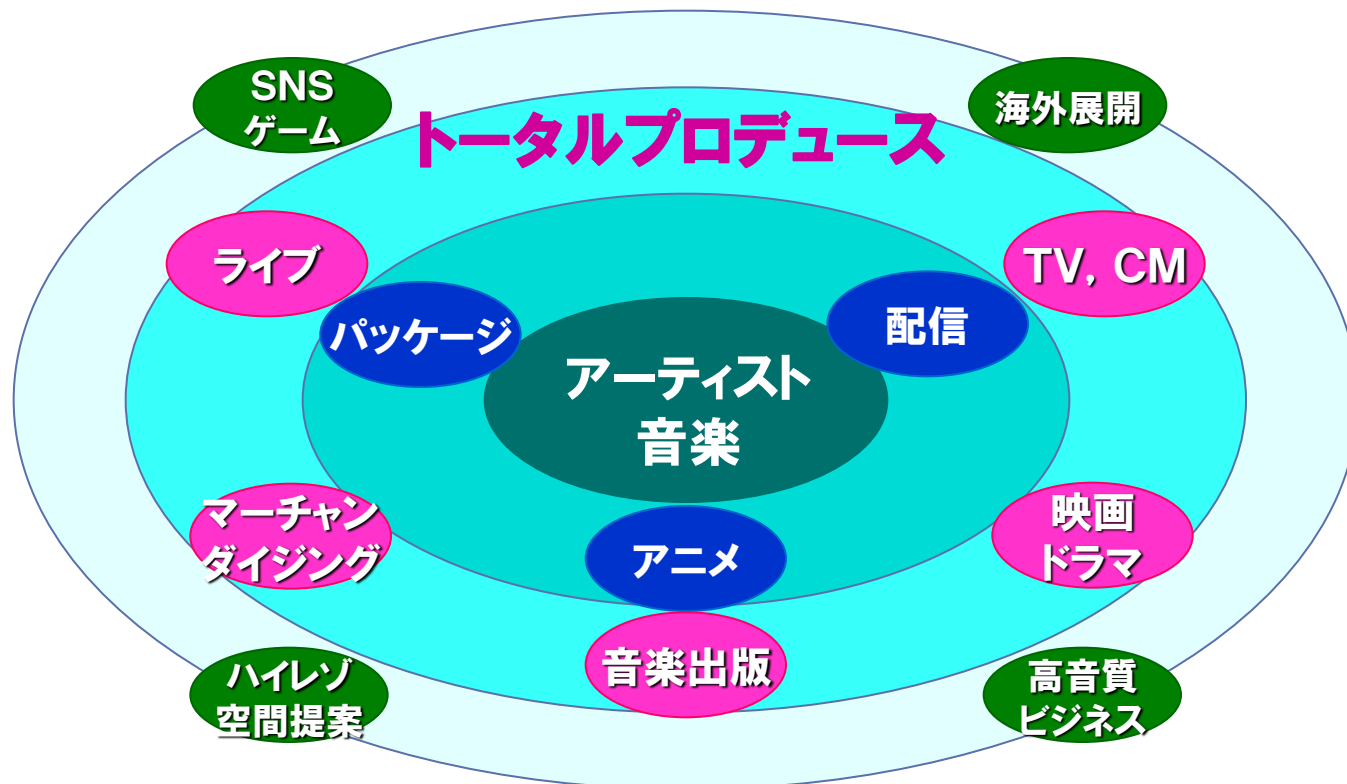


1. 事業ポートフォリオの強化 1) 利益拡大に取り組む事業群

② エンタテインメント事業

* 新人・中堅アーティストの発掘・育成と総合エンタテインメントへの事業革新

* 受託ビジネスの生産性向上



1. 事業ポートフォリオの強化 1) 利益拡大に取り組む事業群

③ AVアクセサリー分野 (HM事業)

* 高付加価値モデルや新興国専用モデルなど商品群の拡充と販売地域の拡大



臨場感溢れる音場を実現する
ライブビートシリーズ



香港・中国向けヘッドホン



海外向け新コンセプト・ヘッドホン
"ésnsy(エッセンシー)"シリーズ

④ プロジェクター分野 (HM事業)

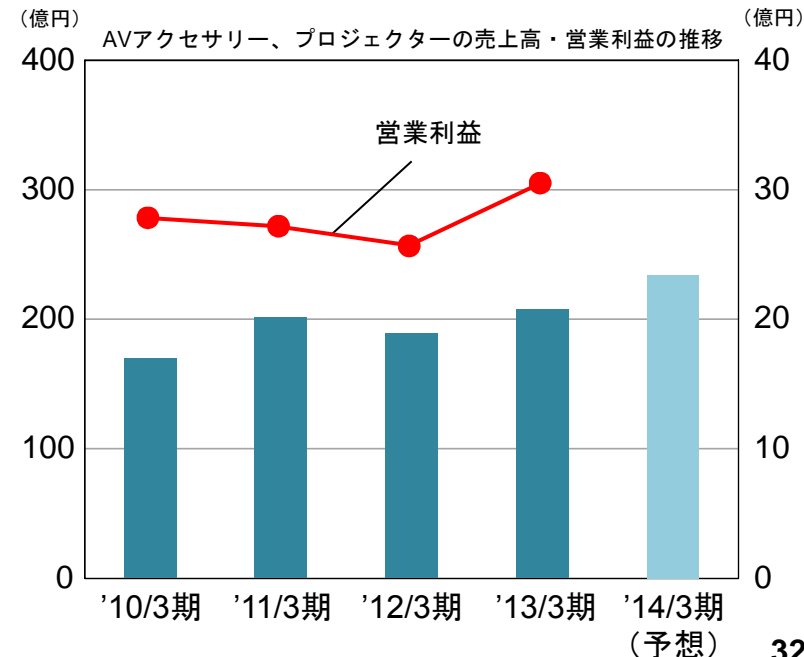
* 先行する4Kプロジェクターの販売拡大と
販売チャネルの拡充



豊富なラインアップを揃える4Kプロジェクター



PSの販売チャネルを活用する
業務用8Kプロジェクター

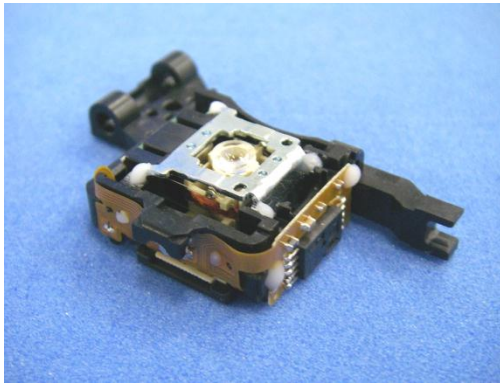


1. 事業ポートフォリオの強化 1) 利益拡大に取り組む事業群

⑤ 車載機器用光ピックアップ分野（CE事業）

* 新開発光ピックアップの本格量産拡大と新規顧客の獲得

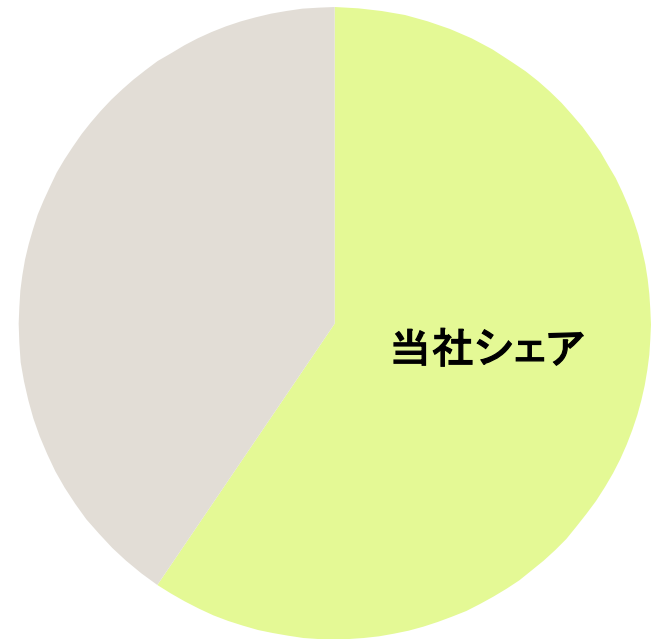
外販光ピックアップ市場の当社シェア
('13/3期 当社調べ)



新開発CD光ピックアップ



新開発DVD光ピックアップ



1. 事業ポートフォリオの強化

- 1) 利益拡大に取り組む事業群
- 2) 収益力強化に取り組む事業群**
- 3) 戦略的成長に取り組む事業群

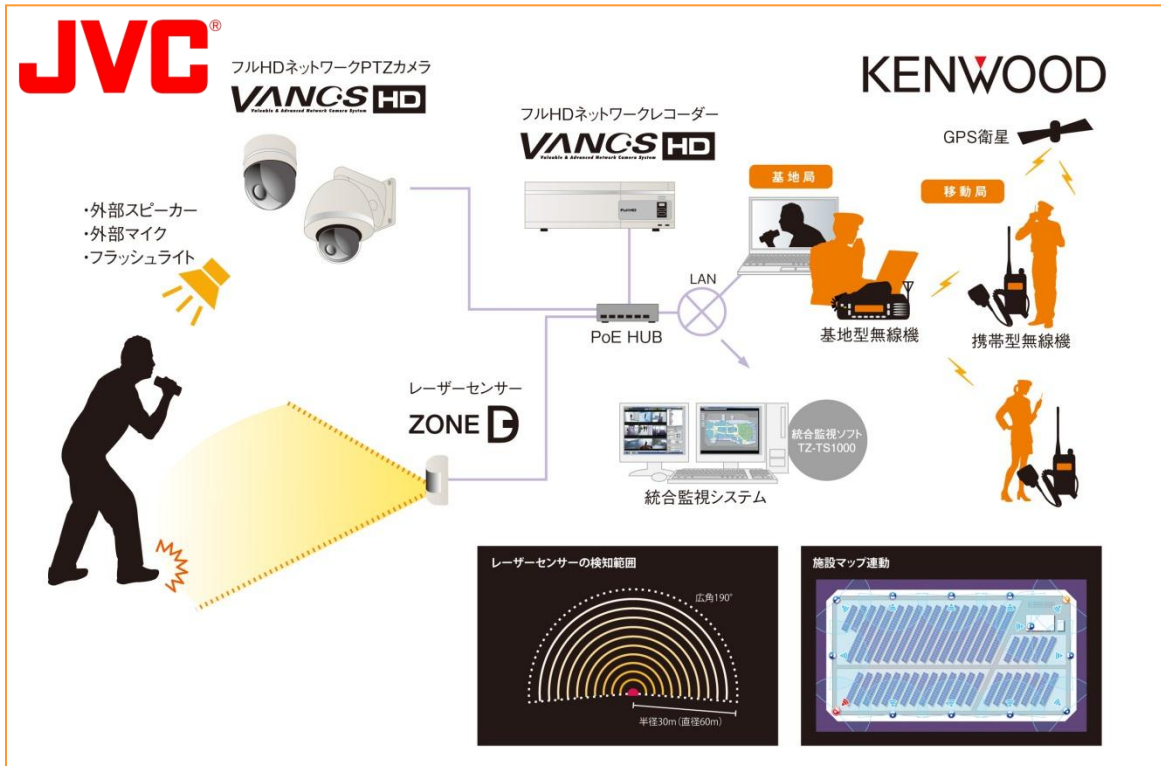
1. 事業ポートフォリオの強化 2) 収益力強化に取り組む事業群

① ビジネスソリューション事業 (PS事業)

* システム開発・設計体制の強化とパートナーシップによるソリューションビジネスの拡大

* 業務用ビデオカメラ、セキュリティカメラの受注拡大

デンソーとのパートナーシップによる外周監視システム



海外大手放送局
も採用した
業務用ビデオカメラ

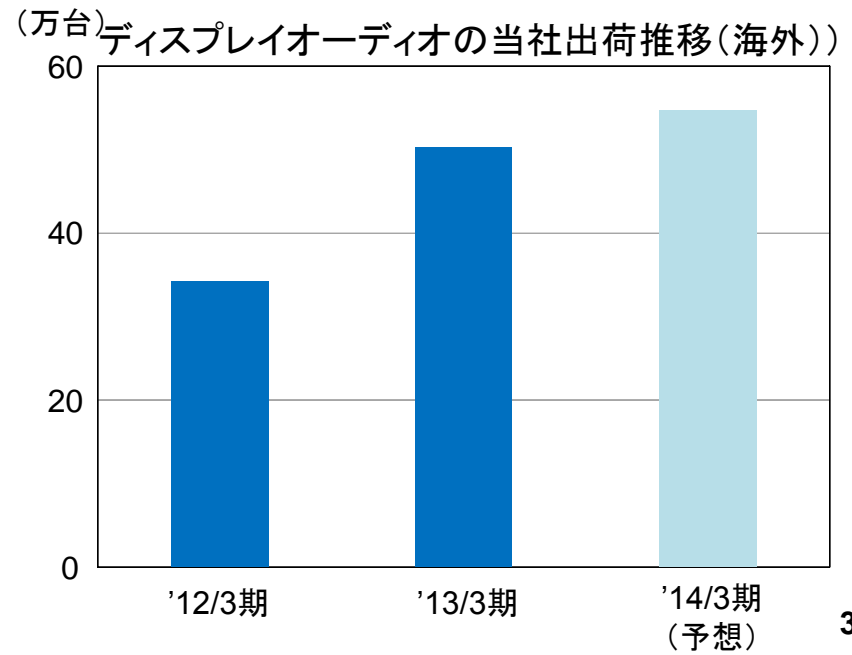
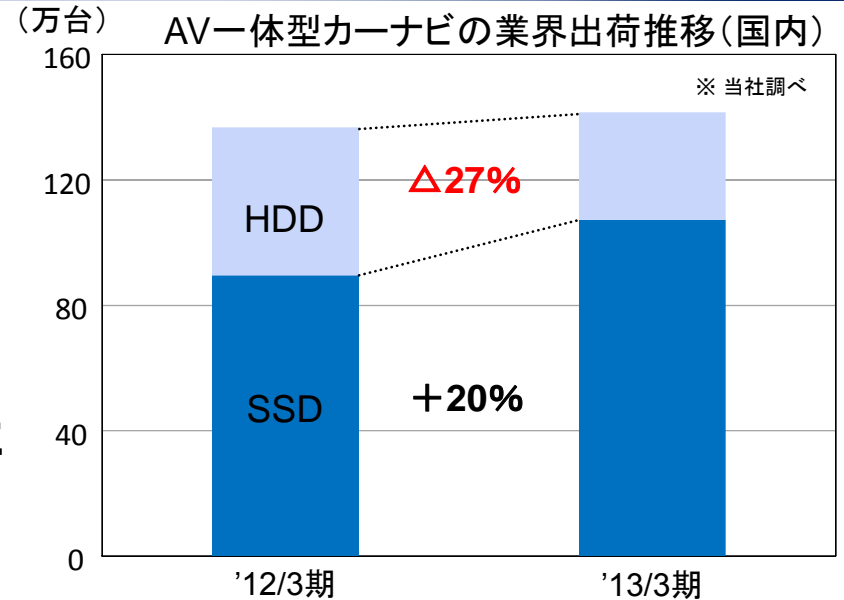


防災・減災対応
業務放送システム

1. 事業ポートフォリオの強化 2) 収益力強化に取り組む事業群

② 市販事業 (CE事業)

- * SSDタイプに特化した国内向けカーナビの商品力強化、販売拡大と原価低減
- * 海外向けディスプレイオーディオ商品群の拡充と販売拡大
- * 新興国専用商品による新興市場開拓



国内向け「彩速ナビ」



海外向けディスプレイオーディオ



新興国向けCDレシーバー

1. 事業ポートフォリオの強化 2) 収益力強化に取り組む事業群

③ OEM事業 (CE事業)

- * 専用設計カーナビ／ディスプレイオーディオの開発・量産と次期モデルの新規受注獲得
- * 市販転用カーナビのディーラーオプション受注拡大
- * ヘッドアップディスプレイなど新機軸商品の商品化

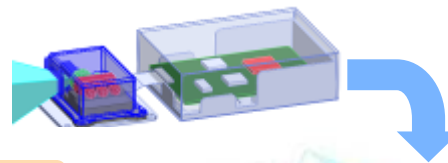
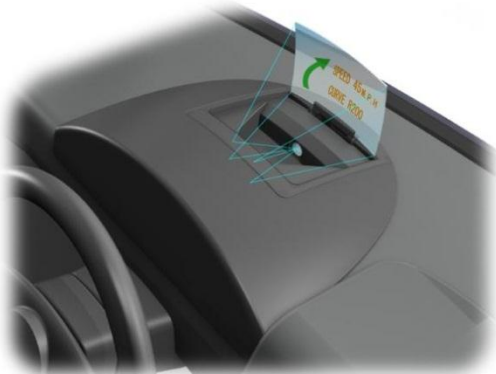


専用設計カーナビ



市販転用カーナビ

LCOS-HUD



LSM-HUD



1. 事業ポートフォリオの強化 2) 収益力強化に取り組む事業群

④ カムコーダー分野 (HM事業)

* スポーツカムや肩乗せカムなど提案型・高付加価値型商品群へのさらなるシフト



スポーツカム「ADIXXION」



スポーツの撮影に特化した
コーチングカム



セミプロ向け肩乗せカム

⑤ オーディオ分野 (HM事業)

* 販売地域・商品の絞り込みやアウトソーシングの活用による
高付加価値型商品群へのさらなる集中



ネットワーク対応
ウッドコーンオーディオ



Bluetooth対応
Kシリーズ



重低音再生を実現する
パワードウーファーシステム₃₈

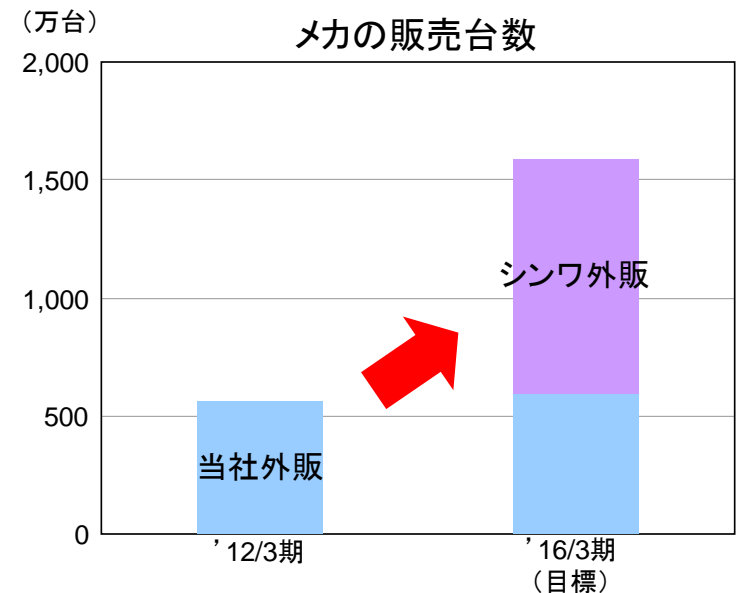
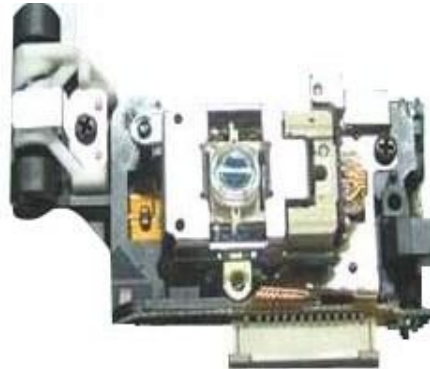
1. 事業ポートフォリオの強化

- 1) 利益拡大に取り組む事業群
- 2) 収益力強化に取り組む事業群
- 3) **戦略的成長に取り組む事業群**

1. 事業ポートフォリオの強化 3) 戦略的成長に取り組む事業群

① シンワ (CE事業)

- * 早期の連結子会社化に向けた準備
- * 車載機器用光ディスクドライブメカニズムにおけるシナジー効果創出と水性塗装樹脂パネルの事業拡大



② 東京特殊電線(株)の情報機器事業 (PS事業、CE事業)

* 2013年7月1日付での連結子会社化

* 医用分野への本格参入と映像技術におけるシナジー効果創出

<医用画像表示用ディスプレイ>



マンモグラフィ、MRI、CT、
レントゲン画像診断用ディスプレイ



<EMS関連生産品目>

- ◆自動車用基板
 - ・ブローアーマーター用制御基板
 - ・パワーシート用センサー基板

- ◆二輪車用基板
 - ・メーター用
 - ・点火ユニット用

2. 為替変動リスクの軽減

2. 為替変動リスクの軽減

■ 営業内・外で為替変動リスクを軽減済み



為替感応度
1円円安の場合
の影響額(億円)

	2012年度	2013年度
営業損益 為替感応度	対米ドル円安、対ユーロ円高 がマイナス要因 米ドル $\Delta 5$ /年、ユーロ $+2$ /年	為替感応度是正により 営業損益への影響をミニマイズ 米ドル $\Delta 2$ /年、ユーロ $+2$ /年
営業外損益 為替感応度	対米ドル円安がマイナス要因 米ドル $\Delta 1$ /年	親子会社間貸付金の整理により 営業外の為替評価損リスクを軽減 米ドル 0 /年

3. 企業基盤の強化

3. 企業基盤の強化

1) 財務基盤の強化

- ・本年8月償還の社債60億円は、調達済み無担保借入で償還予定
- ・一部ファイナンスを通じて、借入条件の一層の改善を目指す

2) 海外販売会社の統合

- ・'12/3末に約40社→'13/3末には約30社→引き続き統合を推進

3) 連結バリューチェーン革新

- ・4つの事業グループと全社横断的タスクフォースにより「連結バリューチェーン革新」を推進
- ・在庫・廃棄の圧縮、販売部門の発注から工場出荷までのリードタイムの短縮、調達コストの低減、市場不良率の最小化をはかる

4) 環境保全・社会貢献活動

- ・「低炭素社会実行計画」に参加。「2020年に向け、エネルギー原単位改善率 年平均1%」達成を目指す。
- ・省エネ法に準拠した管理体制の整備と中長期計画の策定 ほか



①



②



①



③

① 当社は、2013 WTCC FIA 世界ツーリングカー選手権をサポートしています。② 当社はボードフォン・マクラーレン・メルセデスF1チームに無線システムを供給しています。③ ニューヨークタイムズスクエアに設置している大型広告看板をリニューアルしました。(写真は展開イメージです)



VODAFONE McLAREN MERCEDES
OFFICIAL SUPPLIER

JVC KENWOOD
creates excitement & peace of mind